

# JWSF

Japan Wheelchair  
Seating Foundation

## 日本車椅子シーティング財団

## 財団通信 2024年 新春号

2024年1月1日 No.14

一般財団法人日本車椅子シーティング財団, 〒103-0012中央区日本橋堀留町1-10-1カクタビル2F

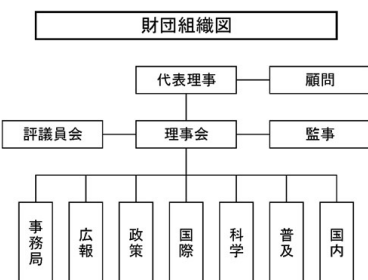
<http://www.wheelchair-seating.org/> e-mail:[info@wheelchair-seating.org](mailto:info@wheelchair-seating.org)

### 2024年度 日本車椅子シーティング財団の事業計画について

代表理事 木之瀬隆

2023年は新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行後は、経済経済活動も活発になり、合わせて診療報酬のシーティングや介護保険のシーティングについても医療機関・介護保険施設での動きが活発になってきました。

一般財団法人日本車椅子シーティング財団（以下、シーティング財団）は、2016年に設立され、2017年に診療報酬のシーティング算定、2021年の介護保険改正ではシーティングの介護報酬算定などの活動を行ってきました（組織図）。財団活動は理事8名、監事1名、評議員5名、顧問数名で行っています。2023年度はそれらの普及啓発活動、発達障害領域のプロジェクトを立ち上げてシーティング財団の外からの専門家も加えて現状の課題を整理しました。2024年度は上記の活動をより促進し、国民の寝たきり予防から自立支援に向けたシーティングを関連団体などと以下のように進める予定です。



1. 介護保険のシーティング、医療機関におけるシーティングの普及啓発活動をセミナーや発行物で促進する。具体的には公益財団法人テクノエイド協会、NPO法人日本シーティング・コンサルタント協会、一般社団法人日本車椅子シーティング協会、一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会など車椅子シーティング関係団体と連携した活動を促進する。

2. 各種団体、障害者団体、公益社団法人全国脊髄損傷者連合会、公益社団法人頸髄損傷者連絡会などと連携し、ユーザーの車椅子シーティングに関する知識の共有として研修会の企画や講師派遣などを支援する。当事者団体と連携した車椅子シーティングセミナーなどの開催を進める。

3. こどものシーティグ・プロジェクトについて報告会や更なる課題の収集整理を行う。

4. 車椅子や車椅子シーティングに係わる医療・福祉、工学、行政、そして製作・供給事業者団体等の連携を目的とした合同シンポジウム開催や団体の情報収集と発信を行う。

5. シーティングが普及していない電動車椅子、自動車上、スポーツ、そして急性期の領域など新規分野開拓に向けて情報収集などを行う。

6. 賛助会員、個人賛助会員の獲得を目指し、シーティング財団活動に興味を持たれるように、ホームページ・コンテンツの充実、啓蒙活動を行う。また福祉用具を扱う卸事業所に賛助会員の勧誘などを行う。

7. ISSなどの国際的なシーティング技術を基本とした専門家教育の提供を目指し、その一環として他団体と連携して海外講師を招くための準備を進める。

上記事業計画に合わせ、担当理事とワーキンググループを作り対応を進める。（以上）

### INDEX

1.2024年度 事業計画

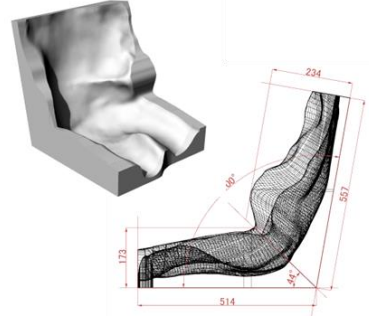
2.こどものシーティング現状と課題ー

3.第2回シーティングセミナーを終えて

4.車椅子ユーザー向けシーティングセミナーについて

# こどものシーティング -現状と課題-

当財団は2023年のプロジェクトとして、こどもを主な対象としてシーティングに関連する補装具としての「座位保持装置」および「車椅子（電動車椅子含む）」をテーマに検討を行った。報告書作成に当たり財団役員5名に加え、外部から有識者3名に依頼しプロジェクトチーム（検討委員会）を発足した。



## 関係者からの意見聴取

児童を主な対象に1990年に補装具として位置づけられた座位保持装置は、随時見直しが行われ、現在では重症心身障害児や医療的ケア児などの日常生活・社会生活においても有効に活用されているが、実態はどのようなものかを確認するために各検討委員および各委員のネットワークを通し意見聴取を行った。問題点の列記だけでなく解決案の提案もお願いした。その結果を10項目に分けて整理した。

1 補装具制度の理念 2 地域格差 3 価格・負担額 4 複数台支給 5 申請・判定・支給 6 姿勢の決定・処方・製作方針・適合・供給 7 アフターフォロー（調整・成長対応・修理・メンテナンス） 8 情報・知識 9 電動車椅子 10 その他

## シーティングに関する補装具制度の見直し案



「子どもの権利条約（1994年効力を発生）」や「障害者権利条約（2014年効力を発生）」により、障害児者の「他の者との平等」が謳われ、これまでの理念の見直しが求められている。補装具制度は1949年から継続している身体障害者福祉法によるもので、「障害」の捉え方が「医学モデル」に偏ったものとなっており「社会モデル」の考え方が十分に取り入れられていない。

## 報告会の開催

検討委員会で2023年末までに取りまとめられた報告書では具体的な提案を行っているが、以下の要領で報告会を予定している。

日時：2024年2月3日（土）13：00～16：00

場所：東京都中央区日本橋堀留町1-10-1 カクタビル2階 会議室

主催：一般財団法人 日本車椅子シーティング財団

参加費：3000円 賛助会員は無料

お申し込み：QRコードよりお申し込みください



Google formでのお申し込みとなります

## 2023年度 第2回 シーティング セミナーを終えて



### 日本車椅子シーティング財団 評議員長 高木憲司

去る、2023年10月14日（土）13:00～16:30、「どうすれば介護保険制度でシーティングを普及させることができるか」というテーマで、昨年度第2回となるシーティングセミナーを開催いたしました。ご登壇いただいたのは、国際医療福祉大学大学院教授の東畠弘子さん、アルジョ・ジャパン株式会社（元厚労省福祉用具・住宅改修指導官）の山下陽子さん、ケアマネウィズだいこんの花 主任介護支援専門員の小島操さん、老健施設関川愛光苑シーティングコンサルタント・作業療法士の二村淳子さん、日建リース工業株式会社介護事業本部の阿部和哉さんの5名で、当財団副代表の加島守と私が司会を務めました。

東畠さんからは、基調講演として「介護保険制度の方向性とシーティング」をテーマにお話いただきました。介護保険制度の中の福祉用具の立ち位置として、テクノロジーの進歩により新たな福祉用具が制度に採り入れられる一方、介護給付費分科会等においてシーティングの言及はみられず、今後、シーティング効果の検証や人材確保、「科学的介護」への位置づけ、在宅における福祉用具専門相談員とリハ職の連携をどうするか等の課題についてまとめられました。山下さんからは、普及させるための方策として、「環境整備、機器の導入、スキルの獲得と統一」から取り組んでいくことの重要性が話されました。小島さんからは、シーティングを知っているケアマネはあまりおらず、相談先も知らない（そもそもない）というネガティブな側面がある一方で、生活の中での「姿勢」に注目する必要性について語られておりました。二村さんからは、老健施設におけるシーティングの取り組みについて紹介され、機器の導入等に予算がかかるため経営者側の理解が必要であるが、重要な取り組みであることが強調されました。阿部さんからは、リース会社の立場からデータを使って現状を浮き彫りにされ、不適切な使用方法も散見される一方、シーティング機能を有する機材も増え、勉強会の開催も行っており、適切な使用でQOLが高まる可能性も指摘されていました。

ディスカッションでは、シーティングが適切に行われることで、利用者のQOLが向上することをきちんと検証し、介護保険における立ち位置を明確化していくことで、普及が図られるということや、シーティングの重要性についてもっと発信していくことが必要であり、そのための動画、SNS等の素材を集めていくことも有効であること等が確認され、非常に有意義なセミナーではなかったかと思えます。

当財団では、今後とも、シーティングの普及のために様々な企画や発信を続けていきたいと考えておりますので、皆様方のさらなるご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

## 日本車椅子シーティング財団理事 芝崎泰造

車椅子を使用する方々は多様な障害に分かれますが、私たちが主催する車椅子ユーザー向けシーティングセミナーは、手動車椅子を自在に操ることのできる脊髄損傷者を対象にしています。脊髄損傷は損傷部位による障害程度の差こそありますが、概して社会復帰が見込める障害のひとつです。多くの脊髄損傷者がその困難を乗り越え社会復帰を果たし、日常生活を取り戻しています。そのような彼らは、どうしても一日の車椅子上での活動時間が長くなるため、車椅子の適合状況が身体に与える影響は無視できないものになります。実際に肩や腰の痛みといった身体の不調を抱えながら日々を過ごしている車椅子ユーザーは少なくありません。

車椅子の購入時には販売業者が使用者の身体状況や生活環境を考慮し、適切な調整を行ってくれます。しかし、その後の身体状況の変化や車椅子操作スキルの向上に伴って車椅子の再調整が必要になってくる場合があります。販売業者に依頼して調整を行ってもらえるユーザーはそれで良いですが、頼める業者が無く不十分な適合状態のまま車椅子を使用し続けて、身体の不調を訴えながら生活している方も珍しくありません。車椅子使用者が正しいシーティング知識と技術を身につければ、ユーザーが自身の健康を守り、コントロールできるようになります。シーティングの普及が進めば、さらなる障害者の社会参加が促進され、障害者が自らの価値を見だし社会貢献できる場を広げる一助となります。

しかし、残念なことに車椅子ユーザーがシー

ティングを学ぶ機会は殆ど無いのが現状です。入院中には車椅子の基本操作は訓練してもらえますが、フィッティングの仕方までの指導は限られた病院でしか行われていません。退院後は情報の入手がさらに困難になります。以前は障害者同士が自身の経験を持ち寄り共有し合うコミュニティが活発で、交流の中から自分に合ったやり方などを学ぶことができました。車椅子スポーツサークルや当事者団体の活動等はそういったコミュニティのひとつと言えます。近年では障害者雇用の拡大やSNSの普及などで、当事者同士で情報を共有し合ったりする場の必要性が薄れています。各種車椅子スポーツの競技人口が減少している事から見ても明らかです。ネット上では自分と同じようなことで悩んでいる車椅子ユーザーの情報は共有できますが、問題を解決できるような専門的な情報を見つけることは困難です。自分自身で学ぼうとしても、シーティングに関する業界関係者向けのセミナーは開催されていますが、一般向けのセミナーは全く不足しています。

そこで私たちは、全国関髄損傷者連合会と協力し、車椅子ユーザーとその家族向けの車椅子シーティングセミナーを開催することにしました。これまでに3回のセミナーを実施し、さらに2024年3月には滋賀県草津市での開催を予定しています。今後もこの取り組みを通じて、できるだけ多くの障害者の方々にセミナーに参加して頂き、車椅子シーティングが身近なものとなるよう努めてまいります。



## Profile

芝崎泰造 (しばさきたいぞう)  
62歳 京都市在住  
三貴ホールディングス株式会社 FORCE事業部 部長  
20歳の学生の時に交通事故で脊髄損傷となる。  
大学卒業後、(有)日本車椅子(現、ニック(株))にアルバイト入社。ニック京都営業所所長を務めたのち、グループ企業内移籍で名古屋本社へ単身赴任。

(株)FORCE、(株)ミキの代表取締役社長を務め現職に至る。商品企画・販売企画を主業務としていて、2022年にスタンディング車椅子「NOVA\_RiseActive」をFORCEブランドでリリース。

モノづくりを通して、車椅子ユーザーの方々に共感してもらえる有益な情報を直接的に届ける活動を行っていきたいと考えている。絶賛単身赴任継続中。

## 開催したセミナー

2021年9月21日 京都リサーチパーク

<https://ameblo.jp/sekison-kyoto/entry-12698951541.html>

2023年2月4日 京都テルサ

<https://ameblo.jp/sekison-kyoto/entry-12787712721.html>

2023年9月23日 秋葉原コンベンションホール

<https://www.zensekiren-tokyo.com/>

## セミナーの内容

## 1. 車椅子の構造理解

車椅子の基本構造を理解し、脊髄損傷者向けと一般的な車椅子の違いを知る。

## 2. 車椅子各部の名称

車椅子の各部の名称と機能を学びセラピストや販売業者とのコミュニケーションを円滑に行えるようにする。

## 3. 車椅子の走行特性

車椅子の操作性・走行性を向上させるための調整方法を学ぶ。

## 4. 車椅子と身体のアライメント

座位の良姿勢を理解し、自分に合った最適な座位姿勢を見つけるための基礎知識を身に付ける。

## 5. 車椅子適合のポイント

車椅子の構造を理解したうえで、車椅子の採寸ポイントやモジュール型車椅子の設定方法を学ぶ。クッションの選び方や各種ベルトの使い方についても解説する。

## 【編集後記】

新年明けましておめでとうございます。本年も日本におけるシーティング普及のため、微力ですがシーティング財団理事・評議員・事務局一丸で取り組んでまいります。どうぞ引き続きご指導ご鞭撻の程よりしくお願い申し上げます。(事務局 川畑・清水)